

保育体験プログラムの実施



この事例のポイント

保育に興味・関心のある中高生だけではなく、保育に興味がなくても参加できるようなプログラムを企画し、多くの中高生の参加を募りました。

この取組を行った背景や目的

保育志望者が減少する中で、保育に興味・関心がある中高生だけではなく、保育に興味がなくとも参加したいと思えるプログラムを企画することで、保育志望者の裾野を広げることが目的としました。

このプログラムは、文部科学省委託事業R6「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業として実施しました。

実施した内容 「わくわくさんと工作・子どもと一緒にダンス」の実施

対象：中高生（その保護者、現職保育者、離職者、養成校生）

方法：札幌市内の中高生に学校を通してチラシを配布し参加募集を行いました。

「わくわくさんと工作では、40名ほどに中高生が参加し、本学付属認定こども園の園児と一緒に工作を楽しみました。子どもと一緒にダンスでは、セイハダンススクールの講師の方に来ていただき、本学付属認定こども園の子どもたちとダンスを楽しみました。どちらも保育に興味・関心がある中高生だけではなく、工作好き、ダンス好きの中高生も参加しました。参加後には全員が保育に興味・関心を持ったと回答しました。



実践するためのヒント

○実施体制について

本学の短期大学の幼児教育保育学科、大学の心理学科子ども心理学科の教員と事務局が連携して企画、広報を行ったので、大学内での連携が重要です。

○今後の取り組みの方向性

保育に関心がない中高生でも子どもとかかわることで、保育職に興味・関心を持つことがわかったので、保育体験プログラムを継続的に開催することが重要である。現在は、オープンキャンパスのプレ企画として大学付属認定こども園の子どもたちと関わるイベントを開催し、予算がなくても自走できるように工夫して継続しています。